

大学連携レガシーネットワーク

運営規程

1. (目的・趣旨)

東京 2020 大会において、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と各大学との連携協定に基づく大学連携プログラムは、学生による東京 2020 大会への機運醸成の大きな効果をもたらした。オリンピック・パラリンピックを通じたスポーツ、平和、持続可能性、ジェンダーイコオリティー等に関する学生の取り組みは、今後の我が国の社会にも必要であると考えられる。

また、オリンピック教育、パラリンピック教育を受け、大会マスコットの選定等に携わった当時の児童・生徒が大学生になったときにかかる連携をその活動の受け皿・社会人への橋渡しとして残し、更に今後のオリンピック・パラリンピックを始めとする国際スポーツイベントに向け、持続的・継続的なムーブメントに結び付けていくことは、大会のレガシーを残すという意味でも重要である。加えて、各地の大学がホストタウンなどで全国に生まれた地域活動の継続に果たす役割も大きい。

かかる観点から、東京 2020 大会のレガシーの一つとして、今後、東京 2020 大会の大学連携プログラムを通じて培ったネットワークを活かし、JOC、JPSA/JPC、JOA が、関係機関・関係者と協調して各大学との連携を継続するため、「大学連携レガシーネットワーク」(大学連携 LNW) として、効率的に情報共有・ムーブメントに関わる活動・イベント企画等を推進していくこととする。

2. (事業) 大学連携レガシーネットワークは事業として下記を実施する。

- ① 加盟大学・団体におけるオリンピック・パラリンピック関連活動の相互の発信
- ② オリンピック・パラリンピック関連の講座等における講師の紹介
- ③ オリンピック・パラリンピック関連のイベントの実施
- ④ その他目的に沿った活動・事業

3. (組織) 大学連携レガシーネットワークの事業を実施し、関係団体相互の連携を促進するため運営委員会、幹事会、オペレーションチームを設置する。

① 運営委員会

- ・運営委員会は、運営委員とオブザーバー委員で構成される。運営委員は、合意書署名団体 (JOC、JPSA/JPC、JOA)、有識者・専門家及び学生代表からなり、オブザーバー委員は運営委員会で選出したスポーツ関連組織や大学 (学生サークル団体含む) からなる。オブザーバー委員は発言や情報の発信が望まれるが、挙手での多数決には加わらない。
- ・事業の内容のほか、新規の大学 (短期大学・専門学校も含む) や団体の本ネットワークへの加盟、運営委員やオブザーバー委員の新規加入など、重要事項はすべて運営委員会にて決定する。決定はコンセンサスを基本とする。コンセンサス

が得られない場合、委員長は次回に持ち越すか多数決を取るか等判断する。賛否同数の場合は委員長が判断する。

- ・本ネットワークの運営は運営委員会により実施されるが、最終的な責任は運営委員（学生代表は除く）が負う。
- ・委員長、副委員長は運営委員会にて決定する。任期は1年、再任可とする。委員長は運営委員から選出する。

② 幹事会

運営委員会の下に幹事会を設置し、必要に応じて運営委員会のアジェンダを作成する。幹事会は委員長が召集する。

③ オペレーションチーム

- ・事務局機能としてオペレーションチームを置く。オペレーションチームの任期は2年とし、再任可とする。オペレーションチームは、会議の開催案内、情報のスクリーニングと発信、問い合わせへの対応などを行う。
- ・情報のスクリーニングと発信については、別途定める